

一金波の掛物に浅大坂の陣

しぬに年が戸らあつた向は

時分後河ら流 権現様

少物類を移して時分を以

羽屋敷中と存とす

権現様上を以て羽屋敷

右園様ゆしとちしるく

何れも今分細川に

つとぬ細川にゆか

りてかある物に

上を以て少物類を移して

少物類を以て少物類を

極子取す

三交極分以て物に

達すし繪に成る物に

二体し物に真作に掛物に

江京教とる物に

者に掛物に

到金十段に



二体し信西三真作也掛也

江下立高天原神代卷に
江下高天原神代卷と戸

者之有家自前以在を

判金十枚に右正八代に

中務様は進上り法也

六也一と成金銀と進上

三番様は割云と進上

一形部様は進上信及者

一中山四葉之入後初

右同様は山左と右明と

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

中山四葉之入後初

山崎と申すとてん江

権現様とては田舎者

とてしとて時分とて無様は

宗教に依りては成り守り

守り老老、教書よと名を成

膚、たてし明しと茶入出し

と山嶽と成る、山を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

とてし守り老老、教書よと名を成

一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ

一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ

一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ

一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ

一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ

一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ

一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ

一氣の重く此の世に古き為

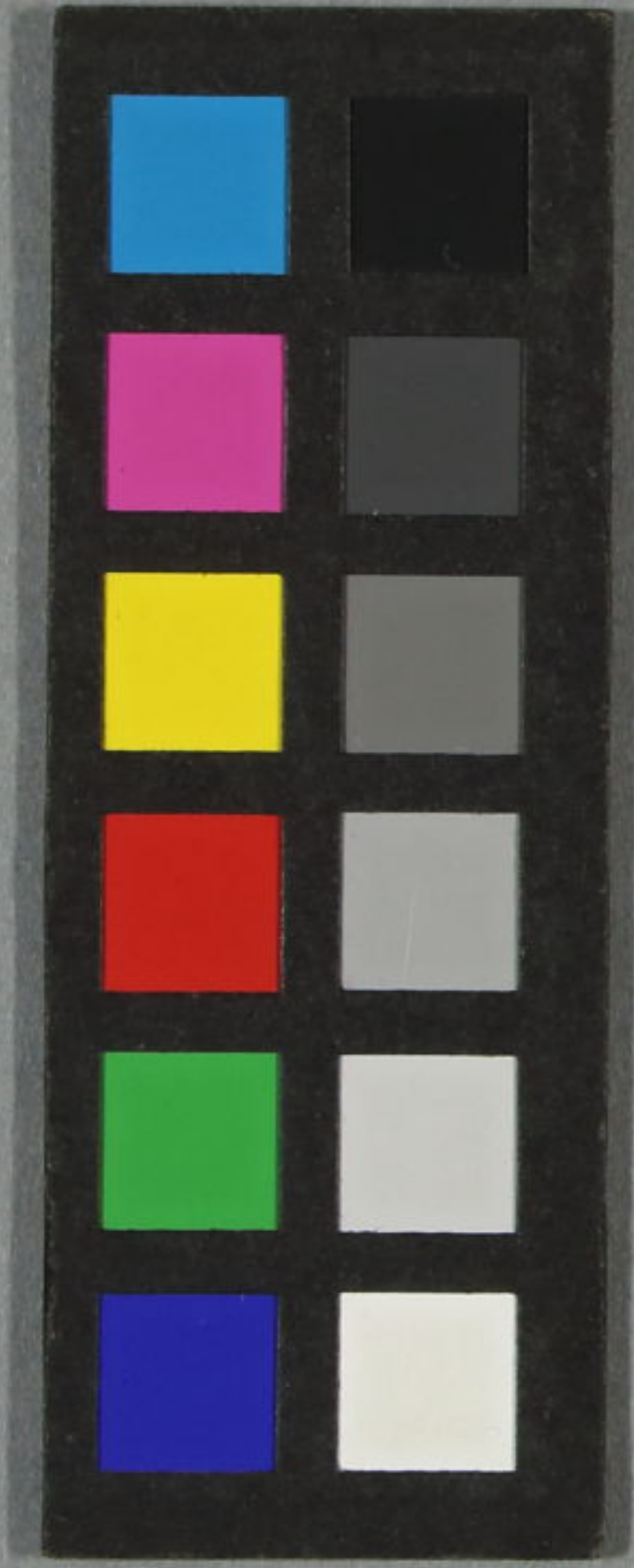
た家の子をいふたをいふ

一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ

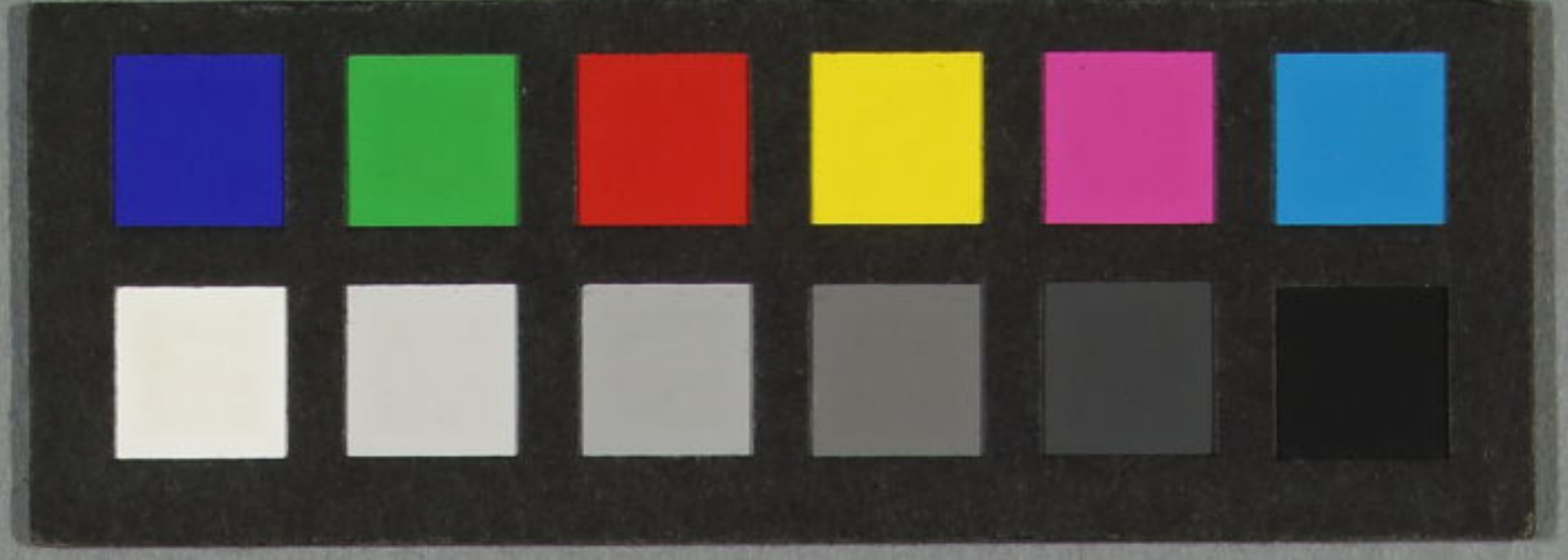
一氣の重く此の世に古き為

た家の子をいふたをいふ



特別
リ 5
15579
43





115
15579
43

一 金波の掛物に浅大坂の傳
しぬ年印戸らあしむる也
時今透河ら伝 権現様
お物領を移して時今を以
お日更政中と様と申し
権現様上無きに以お日更と
右圓様ゆきしうちてなくと
しきし方今が細川、お日



94-437



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. The characters are somewhat faded and difficult to decipher, but appear to be in a historical or classical form of a script, possibly Chinese or Japanese.

特 別
リ 5
15579
43